勝山市

県立恐竜博物館

ブラボーふくい！

世界に誇る研究拠点

世界三大恐竜博物館の一つに数えられる県立恐竜博物館。恐竜の卵をイメージした銀色に輝くドームの中では、研究員たちが日々、新たな発見を求めて化石に向き合っている。

日本一の恐竜化石発掘量を誇る勝山市北谷町杉山の発掘現場から化石が運ばれてくるのが荷解き場だ。これまでに発掘して未処理の化石が天箱に入れられ、床一面に積み上げられている。天箱には現地で研究員が大まかに分類した化石が納められ、研究員の中田健太郎さん(三六)は「重要な化石の天箱には『重』と書かれ、最優先にクリーニングなどの処理に入る」と話す。

研究を支える多くの技術スタッフは熟練ぞろい。岩石から化石を取り出すクリーニング作業では、十年以上の経験を持つスタッフが空気で針を高速に震動させる器具を使う。大きさや状態によっては丸一日かかることも。作業中に重要な化石と判断することもあるという。

展示などに使われるレプリカ作りは手作業。化石をシリコンで固定して石こうで型を取り、樹脂を入れて製作。「研究用と展示用の二種類作り、研究用は色を塗らないんですよ。色がない方が研究しやすい」と中田さん。館内には薬品で岩石を溶かして化石を取り出す部屋やコンピューター断層撮影（CT）で岩石の中の化石を調べる部屋、国内外の学術雑誌などを収めた書庫など、さまざまな設備も研究を支えている。

研究員は十六人。古生物学専門の研究員をこれだけそろえる博物館は国内にはなく、それぞれの研究分野があるのも強みだ。全国から古生物に関する質問を受け付ける唯一の女性研究者の静谷あてなさん(三)は「生態や歩き方など質問は幅広い。これだけ研究員がいると誰かが答えを知っている」と、世界に誇る博物館の一端を紹介してくれた。

（山内道朗）

自然の中に突如現れる特徴的な外観の県立恐竜博物館＝勝山市の長尾山総合公園で（ドローンで山田陽撮影）

恐竜化石発掘現場から運ばれてきた岩石（手前）から化石を取り出すクリーニング室＝いずれも勝山市の県立恐竜博物館で

樹脂や石こうなどを使って手作業で行われる化石のレプリカ作り

恐竜化石発掘現場からの化石が運び込まれる荷解き場

県内外の調査とも連携

県立恐竜博物館研究員・中田健太郎さん(36)

華々しい恐竜だけでなく、自分が専門とするアンモナイトなどの非脊椎動物など、幅広く古生物を扱っていますので、いろいろなところに目を向けていただきたいですね。

勝山市だけでなく、県内外の調査に恐竜博物館は携わっており、それらの成果を知れるのも魅力です。